

仏教美術資料研究センター



重要文化財に指定されている建物は、明治35年(1902)竣工、同年奈良県物産陳列所として開館し、県下の殖産興業と物産の展示販売をおこなう施設として利用されました。

設計者は、建築史学者で当時奈良県技師として古社寺保存修理事業に尽力した関野貞(せきのただし)(1867-1935)です。

木造檼瓦葺(さんがわらぶき)で、小屋組(こやぐみ)や壁などに西洋建築の技術を取り入れつつ、外観は和風を基調としています。

正面に唐破風造(からはぶづくり)の車寄(くるまよせ)をつけた入母屋造(いりもやづくり)の中央楼(ちゅうおうろう)から、東西に翼部(よくぶ)を延ばし、その先に宝形造(ほうぎょうづくり)の楼(ろう)をおいており、その左右対称の優美な姿は、宇治の平等院鳳凰堂を彷彿させます。

細部に割束(わりづか)、墓股(かえるまた)、虹梁(こうりょう)、舟肘木(ふなひじき)など、飛鳥時代から鎌倉時代にかけての伝統的な建築様式を取り入れる一方、窓にはイスラム風の意匠もみられます。

構造・意匠に東西の要素を巧みに取り入れた明治中期を代表する近代和風建築として高く評価されています。

この建物は開館後、奈良県商品陳列所、奈良県商工館と名称を変え、昭和26年(1951)に国に移管されて、昭和27年(1952)から55年(1980)までの間、奈良国立文化財研究所春日野庁舎として利用されました。その後、昭和58年(1983)1月7日に重要文化財の指定を受け、同年奈良国立博物館が管理するところとなりました。

現在は、国立博物館の仏教美術資料研究センター(平成元年開館)として活用されています。

『言霊』の人 みやた おさむ 宮田 修

元NHKアナウンサー/熊野神社(千葉県)宮司

旭川・神戸・福島局では報道・スポーツアナウンサーとして活躍。

原辰徳さんや江川卓さんが高校生の頃、甲子園球場で実況担当。

岡山局ではアナウンスデスクとして後進の指導にあたるともに、テレビ・ラジオの地域放送を開発し、数々の実績を挙げる。その後、広島局・東京本部・大阪局では、ニュースアナウンサー筋に仕事を積み重ね報道のキーパーソンとして活躍した。

特に、平成7年1月17日(火)早朝に発生した阪神・淡路大震災では、その発生直後から冷静かつ確かな報道に当たり、視聴者に大きな安心と感動を与えた。

今日なお「阪神大震災の第一報を伝えたアナウンサー」と、多くの人々の記憶に留まっている。「震災」のあとその実績を評価され、東京本部に異動し、「ニュース7」の土・日・祝のキャスターとして重責を果たした。

平成12年に老神職から後継者になってほしいとの要請を受け、神職資格を取得。千葉県の熊野神社の宮司として奉仕している。

『音霊』の人 しばた あきこ 柴田 晶子

口笛奏者

秋田県秋田市出身。北海道大学経済学部卒業。民間企業に就職後、「国際口笛コンクール」の存在を知り、幼い頃から得意であった口笛で自身もコンクールにチャレンジしてみたいという思いから、「口笛演奏」を本格的に意識し始めるようになった。初出場した2008年国際口笛コンクールにて、成人女性の部・総合2位(ポピュラー部門優勝)、翌年2009年は総合3位(クラシック部門優勝)を受賞。

2012年国際口笛コンクール(アメリカ)成人女性の部・総合優勝

3オクターブの音域を自由に操り、様々なジャンルのミュージシャンとの共演を通じ、新しい口笛の可能性を模索している。特に手回しオルゴール「オルガニート」とマリオネットを組み合わせたパフォーマンスにも力を入れている。